

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890200187		
法人名	社会福祉法人 三桂会		
事業所名	グループホームまんでん六甲の丘		
所在地	兵庫県神戸市灘区篠原伯母野山町3丁目14番2		
自己評価作成日	令和6年1月9日	評価結果市町村受理日	令和6年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	令和6年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和2年12月にオープンした認知症対応型共同生活介護(グループホーム)です。施設を下ったところにある神社への初詣や桜のお花見、夏は大阪湾を見下ろせる立地の為、芦屋の花火大会や、遠く淀川花火大会も施設から観覧しています。秋は山々の紅葉に囲まれるなど、四季折々の楽しみがあります。入居者様には掃除や食器洗い、洗濯物を畳んでいただくなどの家事も積極的にして頂いております。社会福祉法人として地域社会に貢献するために、生活保護世帯の受け入れも積極的に行っており、2024年1月時点で、9名の生活保護受給の方が入居されています。また、労働環境も定時で帰ることの出来る、残業のない施設で、20代から60代の幅広い年齢層が活躍している事業所です。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

六甲山系の中腹に建つ木目調の落ち着いた2階建ての事業所であり、少し登れば系列の特別養護老人ホームがある。市街地を見下ろし、大阪湾が一望でき入居者は時々バルコニーに出て風景を楽しんでいる。事業所独自の理念を作成し、管理者のモットー「敬意」「安心」「貢献」は入居者、地域住民、職員全ての人に向けた思いを込めている。運営推進会議には出席のない方からの意見もいろいろ寄せられ活発である。インスタグラムを開設し生活の様子を目で見られるようにし、家族との連絡も適宜行いコミュニケーションが取れ信頼関係ができています。コロナ感染症の5類への移行に伴い、面会は居室にて行い、家族の気持ちに配慮している。食事レクレーションでたこ焼きパーティーをして、焼きそば、ホットケーキ、ノンアルコール飲料も楽しんだ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

グループホームまんでん六甲の丘

評価機関：CS神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に事業所理念を作り、地域交流室や事務所に掲示していますが、まだまだ浸透しているとは言い難いです。	法人の理念に加えて「一人ひとりに寄り添った丁寧なケア。居心地のいいホームづくり」という独自の理念を作成している。また管理者の利用者、地域、職員に対する思いを「敬意」「安心」「貢献」とのスローガンとし、地域交流室兼休憩室に貼っている。	職員には海外の方もいます。周知のために事業所理念を目線の先(ドアや申し送りノートの表紙等)に張り、面談やミーティング時には意識して話をするなど工夫をしてみませんか。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの5類引き下げに伴い、運営推進会議に自治会長様の参加がスタートしました。また散歩等のタイミングで近隣の方と挨拶などする機会もあります。	自治会には法人として賛助会員になっている。今は交流は難しいが、昨年の自治会総会では事業所の紹介をする機会を得た。犬の散歩で通る方や小学生とは会えば挨拶をしている。感染症が落ちつけば近隣の大学の学園祭に行ってみたいと思っている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住人の方との交流は希薄ですが、運営推進会議開催時に地域包括支援センターの職員様の参加があり情報の共有を行っています。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実践例としては、現在服薬中のお薬についての情報が欲しいと希望された方について、書面でお薬情報を提供しています。	運営推進会議は7月より参集して行うようになった。案内を送る時に返信ハガキを添え参加できない方からも意見を聞いている。頂いた意見や事故報告も載せ判りやすい議事録を作成している。地域住民がもう一人参加できるように現在メンバーを探している。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活支援課の担当職員様と話す機会が多く、空室状況や本人様の様子など伝えながら、関係性を築いています。	市役所には必要な報告をし、感染症関連の情報をもらう等連携している。地域包括支援センターは運営推進会議に参加があり、意見や情報、イベントの案内の情報を共有している。入居に関しての問い合わせ等の相談を受けるなど常に連絡を取っている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	立地上、玄関の施錠は必須の為常時施錠しています。各ユニット内の共有空間は自由に出入り可能です。また見学時や入居時に身体拘束は行わないことを家族様に伝えております。	年に2回虐待防止と合わせて研修を行い、職員が資料やビデオを見て報告書を提出している。玄関、ユニット入口、ベランダの窓は安全のため施錠している。家族から4点柵の希望があった時は入居者の状況や対応を説明し、行わないことを納得してもらった。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時と年に2時間の高齢者虐待防止研修を行っております。今年度も昨年度に引き続き2月と3月に各1時間づつ実施する予定です。	虐待の芽チェックリストを使って研修をしている。不適切な言葉は無意識に出ることが多く、その都度言葉かけの方法を口頭で指導し意識づけを行っている。職員のストレスは個人面談の時や、気になる様子があれば個別に話をして把握するようにしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年1回、権利擁護についての研修を行っています。今年度も神戸市成年後見支援センターのリーフレットを使って研修を行いました。	入居の相談時に成年後見制度の利用も視野に入れて、家族の関係性の把握に努めている。現在は対象となる方はいないが、必要があれば家族の相談窓口として話を聞き、神戸市成年後見支援センターと連携して支援していきたいと考えている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は毎回2～3時間程度かけて行っております。過去の事例などをあげながら家族様の不安解消に当たっています。	施設見学や申込時、本人や家族との面談時に事業所の様子を伝えている。契約時には2～3時間かけ契約書等を読み上げ、具体例をあげて判りやすく説明している。解約と退所、医療面や費用については特に詳しく説明し、家族からは重度化した時の質問が多い。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場でご意見等を家族様から頂いています。欠席される方も事前に、資料を配布し出欠ハガキにてご意見を頂けるようにしております。	運営推進会議で意見を伺う以外にも面会時や電話で話す時には状況を説明している。美容院でのカットやワクチン接種など常に意見を伺っている。今までは家族が居室に入れなかったため、部屋の掃除や整理整頓について要望があり、対応している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは個別に話す機会を設けています。物品の棚割りの変更などの改善、提案は必要に応じて運営に反映させています。	特に定期的に意見を聞く場は設けていないが、面談やそれ以外にも意見があれば個別に聞いている。毎日のレクレーションは職員が自主的に決めており、必要な物の請求もしている。委員会は今は立ち上げていないが、今後の課題と考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所内での職員と管理者の面談は2～3か月に一度実施しています。法人理事と管理者は毎月の会議で話す場を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は法人として、接遇マナー研修を外部から講師を招いて行いました。当事業所からも2名が参加し事業所へのフィードバックを行いました。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上記の法人による研修会開催時に、他事業所との交流する場を設け、交流いたしました。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当面の介護計画書をもとにサービスを提供しながら日々様子を見て、聞いて安心感を抱いて頂ける様関係性を構築しています。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学、面談時より家族様のニーズをくみ取り、関係づくりに努めています。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、福祉用具サービスや介護タクシーサービスなどの他のサービス利用を含めた対応を行っています。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はご本人が、出来ないことを介護職員が手助けする関係性を築いています。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	上下の関係ではなく、フラットな関係で悪い情報程早く共有出来るように、日々関係性を築いています。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症の拡大縮小に応じて面会制限も変わってきていますが、現在は事前予約あれば30分限定で居室にて面会頂ける様、取り計らっています。	コロナ感染症の5類移行後は居室で30分の面会を可能にし、知人の訪問もある。希望により電話をかけ家族と談話してもらうこともある。受診の帰りに美容院に行ったり、墓参りや正月は自宅に日帰りした方、感染予防をして家族と外食を楽しんだ方もいる。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人にならない様、テーブルレイアウトを変更したり、間に職員が入って関係性を築いていただける様お声掛けをしています。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去の実績はありませんが、解約時にいつでも何かあればご相談くださいと声掛けをしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族に伺った生活歴を紐解いたり、ご本人の今の様子を見て、意向の把握に努めています。	契約時に家族、本人から思いや意向を聞いている。入居後は入居者へその都度確認している。思いや意向を伝えにくい方は生活での行動、表情を観察して汲み取っている。面談時にも詳しく聞いている生活歴から紐解き、入居前の生活習慣を継続している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に、ご家族やご本人からある程度詳しい生活歴を伺うようにしています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事業所としての1日の流れはありますが、その中で、昼寝したい方、テレビ観たい方、塗り絵したい方、散歩したい方など個別の対応を出来る限り行っています。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族はもちろん、職員にも個別にヒアリングして現状に即した介護計画の作成を行っています。	本人・家族の思いや希望、職員・主治医・訪問看護師からの情報や助言等はタブレットに入力され、計画作者担当者がそれらを包括的に検討し定期的に介護計画を見直している。大きな変化があった時はその都度見直しをする。実践状況は日々確認している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットを活用し情報の共有を行ったり、ケアプラン抜粋表をもとに介護計画の実践状況を日々確認しています。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所外部からの訪問サービス関係(鍼灸、福祉用具等)も活用しながら、柔軟にサービスの提供を行っています。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状、地域とのかわりはありません。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の運営している往診医にほぼ全員診ていただいておりますが、希望者はこれまでの病院への受診対応を行っております。	協力医療機関の医師による隔週の往診がある。24時間対応の訪問看護師も隔週で訪問がある。希望により入居前からのかかりつけ医への受診も職員、家族が対応している。訪問歯科は毎週往診がある。可動域訓練をする為に柔道整復師が毎週来ている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週に1回、訪問看護師が来て体調確認を行うとともに、急変時は24時間の電話での対応を行って下さっています。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は定期的に入院先の病院と情報交換を行っています。また営業活動もかねて病院への訪問も行っております。	入院がある場合は、かかりつけ医の紹介状、個別ファイルの生活状況、必要な情報提供表をFAXしている。入院後は早期の退院に向けて電話での情報交換や訪問をしている。情報は家族、職員と共有して、スムーズに元の生活に戻れるようにしている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と連携しながら状態の良くない方については早めにご家族と主治医との話し合いの場を作れるよう配慮しています。	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」「延命処置に対する意思表示書」を用いて出来る事、出来ない事を丁寧に説明している。状態が良くない場合は早目に主治医と家族とが話し合いが出来るようにしている。家族、本人の意に沿って援助している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時(急変時)対応の研修を毎年必ず実施しております。また急変時対応のチャート図も各ユニットにセットしています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間、日中想定避難訓練を各1回ずつ毎年行っております。残念ながら地域との連携は出来ておりません。	消防訓練は昼間、夜間の想定で通報、避難、消火の訓練を年に2回している。水害訓練を年に1回している。非常食は近隣に建つ同法人の系列施設に備蓄が3日分ある。感染症関係の衛生材料品は緊急時に対応できるよう備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居、職員間でも互いにリスペクトしながらコミュニケーションが取れるよう研修や、日頃の声掛けを行っています。	年に1回「倫理及び法令順守」「プライバシー保護」の研修をしている。入居者との会話は、慣れ合いにならない、無視しない、恥ずかしい事は言わないという三点を特に注意している。職員間の会話は「ありがとう」と言い合える会話を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	トイレや食事のシーンでも「〇〇しませんか？」などの声掛けを行って、自己決定を促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所としてのスケジュールを考慮しながらも、ご本人の意向があれば、入浴日の変更など柔軟に行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族が持ち込まれた衣類を、ご本人の意向があればそれに沿った衣類を着用していただいています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前のテーブル拭きや食後の食器洗いやお盆の拭き上げ等、出来る方に出来る家事を行っていただいております。	食事は業者から届く半調理の食材を利用している。入居者は食器洗い、お盆拭き等をしている。行事食は希望を聞き、今年はたこ焼きパーティーをした。ノンアルコール飲料、焼きそば、ホットケーキを楽しんだ。日々は午前中にお菓子とお茶を楽しんでいる。	午前中のお菓子、お茶、行事食も楽しんでます。テイクアウトの品、インスタント的な品を用いて、定期開催になるようにして、食の楽しみの機会を増やす事をしてはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や主食の量などは、ご本人の状態に応じて柔軟に変更しています。また、水分量が少ない方には追加で飲料の提供も行っております。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人の状態に応じて口腔ケアを行っています。また2週間に1度、希望者には訪問歯科の診療を受けていただき、口腔内のケアを行っております。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をもとに、それぞれの排泄パターンを検討し、タイムリーな排泄ケアが出来る様に心がけています。	自立の方は7人、紙おむつ、リハビリパンツの方が10人居る。タブレットの排泄記録から判断し、事前にさりげなく声を掛けて排泄支援をしている。夜間は自立の方には声掛けはしない。他の方には定期訪室している。ホータブルトイレも設置している。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事以外にも、運動や水分摂取量、それでも難しい時は服薬による排便コントロールを行っています。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状、曜日と時間を固定して入浴を行っています。もしご本人がどうしても入りたくないという場合は時間や日を変える対応は行っています。	一応入浴の日、時間は決めているが、本人の体調や気分に合わせて柔軟に対応しており、楽しんでもらっている。拒む方には原因を探り、声かけの言葉を工夫して誘っている。同性介助を基本に考えている。ゆず湯、菖蒲湯の季節湯を楽しんでいる。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアの消灯時間は決まっていますが、各居室においては、それぞれのご入居者の意向に応じています。夜間照明の明るさもご本人の希望にあわせています。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診後、薬の内容が変われば職員に、何の薬が変わったのかの申し送りを行い、かついつでも薬情が見れるようにファイリングをしています。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事や、日々のレクリエーションの制作、塗り絵、体操、歌など、個々の楽しみを提供出来る様に対応しています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員体制に余裕があれば近隣への散歩等の支援を行っています。また、ご家族が対応可能であれば感染対策を十分行って頂く前提での外出支援を行っています。	天候の良い時は近隣の平坦な道を散歩している。近隣の系列施設までの坂を上る時もある。バルコニーや玄関先にイスを置いて風にあたり気分転換をしている。花火大会には希望者全員がバルコニーに出て鑑賞している。感染対策を十分して家族と外出している。		
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、お金の所持はされていませんが、例外的に無いと落ち着かない方は持っておられます。ただ、ご家族へは紛失等のリスクがあることの上承は頂いております。			
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方はご家族の上承のもと、電話の取次ぎなど行っています。			
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	華やかな装飾などはなく、ご入居者の作品などが飾られているアットホームな空間となっています。	玄関、リビングの壁には入居者手作りの塗り絵と貼り絵がミックスされた絵を貼っている。壁の中心には季節感のある大きな貼り絵を掲示している。換気も行き届き臭いも無く、室温も管理されて居心地良い空間になっている。		
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は基本的には自由です。また、ソファーを活用することで、独りの空間も確保しております。			
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みの物品はなるべく、使い慣れた、馴染みのあるものをお願いしています。化粧台(鏡台)などを持ち込まれている方もいらっしゃいます。	ベッド、エアコン、カーテン、大きなクローゼットを設備している。使い慣れた整理ダンス、鏡台を整頓して置いている。その上には思い出の写真、大切にしている小物、人形等を飾っている。居室の入り口には目線の位置に表札を貼り、分かりやすくしている。		
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間には手すりがあり、トイレなども視認性の良い張り紙などを使い分かりやすくしています。			